

## 議会報告会・意見交換会記録（第12回）

1 日 時 平成31年4月17日（水） 午後6時59分 開会

2 場 所 原通コミュニティセンター

3 出席委員 12名

広報広聴委員長	横尾 祐子	産業経済委員	小嶋 正彰
総務文教委員長	宮澤 一照	議 員	霜鳥 榮之
総務文教委員	阿部 幸夫	〃	太田 紀己代
建設厚生委員	渡辺 幹衛	〃	堀川 義徳
建設厚生委員	八木 清美	〃	岩崎 芳昭
産業経済委員	植木 茂	〃	樗沢 諭

4 欠席委員 0名

5 市民出席者 31名

6 事務局員 2名

局 長	築田 和志	主 査	齊木 直樹
-----	-------	-----	-------

7 件 名

議会報告会・意見交換会

- 1) 開 会
- 2) あいさつ 議会報告
- 3) 意見交換 「農業を中心にした今後の地域づくりについて」
- 4) 閉会あいさつ
- 5) 閉 会

1. 開 会

○司会（霜鳥榮之） 皆さん、こんばんは。お忙しいところ大勢の皆さんにお越しをいただきまして、大変ありがとうございます。私、本日の司会進行をやらせていただきます。総務文教委員の霜鳥といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

妙高市議会では平成27年3月に制定された議会基本条例に基づきまして、開かれた議会を推進する取り組みの一つとして議会報告会・意見交換会を開催しております。今回は16、17、18日の三日間。きのうは妙高高原、そしてきょうは、妙高、あしたは新井地域と、三つの地域で開催を行います。本日は、担当議員6名と運営補助として5名の11名で進めさせていただきます。それでは最初に担当議員の6名の自己紹介をそれぞれさせていただきます。それでは一人ずつ所属委員会と氏名等をお願いいたします。

○産業経済委員（植木茂） 皆さん、こんばんは。産業経済委員の植木茂でございます。きょうはよろしくお願いいたします。

○産業経済委員長（小嶋正彰） 皆さん、こんばんは。産業経済委員会委員長を拝命しております小嶋正彰です。どうぞよろしくお願いいたします。

○総務文教委員長（宮澤一照） 皆さん、こんばんは。総務文教委員会の委員長をやらさせていただいております。宮澤でございます。よろしくお願いいたします。

○総務文教委員（阿部幸夫） 皆さん、こんばんは。大変御苦労さまです。私は、総務文教委員会副委員長に任命いただいております。阿部と申します。よろしくお願いいたします。

○建設厚生委員（八木清美） 皆さん、こんばんは。建設厚生委員会の副委員長をしております、八木と申します。よろしくお願いいたします。

○建設厚生委員（渡辺幹衛） 御苦労さまです。建設厚生委員の渡辺です。よろしくお願いいたします。

○司会（霜鳥榮之） それでは、私のほうからいくつか前もってお願いをさせていただきます。この議会報告会、意見交換会につきましては、後日会議録の作成を予定しております。参加者の皆さんの個人名については公開されませんが、質疑や意見交換における内容、議員の発言につきましては、会議録としてホームページに公開させていただきますので御承知おきいただきたいと思います。

また、質疑や意見交換で発言される場合には、最初にお住まいの地区と名前から発言いただきますよう、お願い申し上げます。あとは、この会終わりましたらアンケートの御協力のほうよろしくお願いいたします。それでは、ただいまから議会報告会・意見交換会を開会いたします。お手元に配付させていただいております、レジメに沿って進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

---

## 2. あいさつ 議会報告

○司会（霜鳥榮之） 初めに横尾広報広聴委員長より御挨拶、議会報告をいたします。それではよろしくお願いいたします。

○広報広聴委員長（横尾祐子） 皆様こんばんは。私は、広報広聴委員長を務めさせていただいております、横尾と申します。本日は、大変お忙しい中でもありますのに、このように多数の皆様には議会報告会・意見交換会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。日頃より、本市議会の活動に対しまして、御理解と御協力をいただいておりますことも心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、私から、本日開催の議会報告会・意見交換会の主旨と目的を御説明させていただきます。まずは、市民の皆様には議会の取り組みを知っていただくとともに、市民の皆様との情報共有、意見交換の機会を設けています。いただいた御意見を市長、執行機関に伝えるだけでなく、議会の活動につなげてまいります。まちづくりの政策決定過程への市民参加がこれからは重要になってくると思っております。最良の妙高市に導くため、皆様の御意見を議会として、政策提言に役立てて行く所存であります。ぜひ、きょうは忌憚のない御意見をお聞かせいただきたいと思っております。

それでは、3月定例会で審議いたしました、平成31年の予算・主要事業の概要や質疑等について説明させていただきます。A3の資料を開いてください。こちらですね。なお、中にある1枚ものの資料は、妙高市の現状、人口の推移、世帯数の推移であります。もう片面は、平成31年度予算や市の借金、貯金の資料となっております。参考資料としてごらんください。見開きの平成31年度予算・主要事業の概要をごらんください。

市長から平成31年度、大きくは5つの方針により取り組むとの説明がありました。方針1、安心して子どもを育み、暮らし続けられるまちづくりの推進。方針2、地域資源を活かした交流人口の拡大。方針3、安心して生活できる健康長寿のまちづくりの推進。方針4、支え合う、地域協働のまちづくりの推進。方針5、未来へつなぐ持続可能な地域基盤の整備。でありました。常に時代の先を見据え、効果的な事業執行に努めていくとのことでした。5つの方針から一つ取り上げて説明いたします。方針4 支え合う、地域協働のまちづくりの推進についてですが、

単身世帯や高齢者世帯が増加し、社会とのつながりが希薄になりやすい現状となっております。そこで、共助の基盤である地域コミュニティの組織力の強化や人材の育成が必要となっております。このため「地域づくり協働センター」を設置し、NPO法人や市民活動団体、地域自治組織の活動の支援体制を強化するとともに、各組織の取り組みを支援していくとのことでした。地域課題の解決や魅力ある地域づくりに向けた活動を支援する「地域づくり協働センター」の設置について、3月議会の常任委員会で質疑したものを報告いたします。委員から地域づくり協働センターの人的な体制はどのようかと質疑したところ、総務課長は、地域支援員2人、市の職員2人の4人体制で行うとの回答でした。このほかにも予算が有効に使われ、市民生活の向上につながるよう、多くの質疑等を行っております。時間の都合もありますので、きょうはこの辺で議会報告とさせていただきます。きょうは、残り時間までよろしくお願いいたします。

○司会（霜鳥榮之） 簡単ではありますが、議会報告ということでもって、報告いただきました。後程またこの件についての質問がありましたら、お受けさせていただきたいと思います。それでは早速意見交換に入らせていただきますけれども、その前にもう一度先ほど忘れまして、議会のほうできょう写真も撮らせていただきます。マスコミも入っておりますので、マスコミの写真もありますので御承知おきいただきたいと思います。なお、議会で撮った写真については、議会のホームページ等に一部掲載させていただく予定でありますので御理解をお願いしたいと思います。

### 3. 意見交換 「農業を中心とした今後のまちづくりについて」

○司会（霜鳥榮之） それでは早速意見交換に入らせていただきます。今回は各会場ごとにテーマを設定させていただきました。こちらの会場のテーマは、正面に掲げてありますように「農業を中心とした今後の地域づくりについて」という課題を設けました。まずは、この点について意見交換を行い、その後日頃思っていること、御意見などございましたら挙手をお願いしたいと思います。なお、議事録作成上、マイクをお持ちしますのでこのくらいの会場だとマイクなしでも声通るよという方もおられますけれども、マイクを通しておかないと議事録つくるのにちょっと不自由感じますので御協力をお願いしたいと思います。発言については、お住まいの地区とお名前を述べてからお願いしたいというふうに思います。

それでは、さっそく意見交換に入らせていただきますけれども、御意見、恐らく昨年は大鹿でもそうでしたけれども準備されてる方何人かおられると思います。できるだけ多くの方から意見交換を進めさせていただきたいと思いますので、御協力をお願いいたします。それでは、まずはどなたかから挙手をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。特にないようでございますけれども、ないところも困るんで、農業の問題、それから地域づくりの問題ということで、私たち何でこういうテーマを設けたかということ、原通地域については地域づくりが盛んでみんなの協働活動が進んでるっていう、そういう情報を基にこの課題を設定させていただいたわけでございます。そのようなことでもって、どっちからいってもいいんですけども、農業の問題でもってかだいがどうなんだろうということ、地域づくりについてもこんな課題があって、こんなのをやってほしいんですけども、こんなのかなんとかならんかというような、皆さんから政策的な提言というような形でもって、ぜひ発言をいただきたいというふうに思いますけれどもいかがでしょうか。

お願いいたします。

○市内男性A ○○の○○です。よろしくお願いいたします。今、農業を中心にしたということで、今後の地域づくりなんです。私どもの原通の北部のほうなんです。半世紀ほど前に圃場整備をしたということで、非常に小さい圃場が多いということで、当時としては画期的な圃場整備だったんですが、今となってみては時代遅れの圃場になって

おります。それで去年からですね、色々市の職員、県の職員方々を交えながら勉強会を開いて今年、4月に要望書を提出してまいりました。基盤整備をやるうということでも地域一丸になって進めているところでございますけれども、この中で一番地域で話し合っている中で、一番の問題は園芸ですね。今県の方針では園芸20%やらないとなかなか順番が上がらないと言われております。私も、今農業が非常に大変なときに園芸まで取り入れられるかということが非常に問題だというふうに思っています。今非常に私ども地区も、高齢化が進んでおります。今、圃場整備が終わるのが10年後です。10年後を見据えたときに園芸まで取り入れて、さらにやれるのかということのを今後色々検討していかなくちゃいけないんですが、それが一番のネックかなと思います。私どもとしては、その次に問題なのが後継者ですね。私もそうなんです、10年後には基盤整備、圃場整備が終わったときには農業をやられてられない年齢になってくるんです。そういうときにどうやって地域の農業を残していくかということも合わせて検討していかなくちゃいけないのかなと思っています。法人化とか大規模農家とか、色々な案はあるかと思うんですが、議員の皆さんはこの辺はどのように考えておられるか、どのように進めたらいいかということをお聞かせ願えればと思っています。よろしくお願いします。

○司会（霜鳥榮之） ありがとうございます。小嶋委員長お願いします。

○産業経済委員（小嶋正彰） はい。小嶋です。いつもお世話になっております。いつもお世話になっているというのは、原通地区にはですね、多面的機能支払だとか、或いは矢代地区の法人設立のときに上中村新田におじゃまして勉強させていただいたり、そういう面で非常に前からお世話になっております。この場を借りて御礼を申し上げるのも変なんですけども、そういったことでこの地区、非常に農業問題については先進地。先進地であるだけに課題も先進地ということだろうと思います。今お話がありましたけれども圃場整備事業、非常に早くからね、やっておられました。時代の流れとともにですね、今は1ヘクタール圃場が普通になってるんですよ。これからこちらのほうで始めるのはそこまで出来るかどうか、ちょっと工事費の関係やなんかで難しいかと思っております。今、やはり圃場整備の場合は後継者をどう育てるかということに非常に重点を置いた制度に変わってきております。その代り補助率も高くなっている。それをうまく使わないとですね、国、県の制度をうまく使わないとなかなか新たな農業投資というのは進まない。できないのが現実ではないのかなというふうに思っています。そういった面ではですね、これから取り組もうということに関してはですね、農業に関わるものとしてですね、非常に素晴らしいと敬意を表したいというふうに思っています。その上でですね、園芸20%、これも県の指導ですよ。これもほかの地区でも頭悩ませています。やはり園芸となると、米と違ってその土地、その土地で適地適作、作物がですね、大きく変わってきます。そういったこともですね、考え合わせながらやらなきゃいけない。去年10月にですね、矢代地区で多面の研修で坂口新田のブドウを見に行かせていただきました。そこも非常に素晴らしい、先行して棚つくってですね、自分たちで投資をしてるというようなことで、素晴らしいなと思って帰ってきたんですけども、そういうあそこはブドウが合うんじゃないかというようなことで、取り組んでいることで、そういう何かがですね、考えていかないと人の真似してもなかなか成功しないというのが園芸だろうな、難しいところだろうなというふうに思っております。そこら辺のところはですね、この土地でどうなのかというのは、知識持ち合わせていないもんですから、いろんな県の普及センターだとか色々ご利用いただければありがたいなというふうに思っています。それから、これから先の農業どうなのか。本当に頭が痛い問題です。高齢化の課題というのは、ずっと前からそうなんですけれども、やっぱりですね、去年私、矢代地区で3月に五つの任意生産組織をまとめて一つの法人にしました。67ヘクタールになりました。そういったことを見ても私の実体験からしますとですね、若い人たちがきちっと働ける。そこで働いて子どもを育てていけるようなそういう経済的な裏付け、そういうものをきちっとやらないとですね、農業をやるうという気持ちにならないんじゃないかなというふうに思っています。そうのためには、やっぱり、おまん

がんばらない、だけではなくて、地域全体です、支援して行くようなそういう体制が必要ではないかなというふうに思います。個人で農業経営拡大していきますとですね、どうしても農地管理のほうが疎かになってくる。草刈り一つにしても非常に大変ですし、江湊いだとかそういう協働作業もなかなか出らんないというようなことが、現実的に表れてくるわけです。そこら辺ところをですね、集落全体です、協働作業、農家、非農家関わらず自分たちの地域を守るということで協力してやっていくとかですね、そういう体制も必要ではないかなというふうに思います。これをやれば大丈夫だという農業対策はないと思います。その土地その土地、その時代、その中でですね、考えていくよりしょうがないかなと思います。農業は非常に天候に左右されるリスクの大きい仕事でもあります。しかし今、一番のリスクは農業生産だろうと思います。減反政策がなくなって、米の価格がどうなるんだろうと非常に去年の今頃は皆さん心配されていたろうと思います。幸いといいますか、なんとといいますか、需給が引き締まったという部分もあって、価格はそんなに動きませんでしたけれども、今年はどうなるかまだわからないということです、そういったトータルです、この農業問題を見ていかなければというふうに思います。全然答えになってないんじゃないかと思いますが、同じような悩みを抱えていると、その中で市の施策、どういうふうにしたらいいのか議会としても真剣に議論しているところでございますので、そういったものを見守っていただければありがたいなというふうに思います。

○司会（霜鳥榮之） よろしいでしょうか。

○市内男性A ありがとうございます。なかなか地域で園芸取り組むのは非常に難しいことだなというのは私も実感しております。なぜかと言えば冬ですね。雪の降らない地域では園芸20%、私は可能ではないかと思っています。ただですね、そういってしまうと話が終わってしまうので、私自身としては、雪を生かした園芸何かできないのかなというのは今後考えていく課題かなと思っています。今、始まったばかりの圃場整備事業ですけども、10年間かかって終わるわけですが、その間にはある程度答えを出すような方法を見つけていければというふうに思っています。それともう一つ、今関係者全員にアンケート取っています。その結果どうなるかはちょっとまだアンケート取り始めたばかりなんでわかりませんが、この辺をですね、地域の皆さんの関係者の意見を取りまとめながら行きたいと思いますので、御協力をよろしくお願ひしたいと思います。

○司会（霜鳥榮之） はい、ありがとうございます。簡単に、簡潔をお願いします。

○産業経済委員（小嶋正彰） 簡潔に。やっぱり農業は生産するだけじゃなくて、それを加工して販売するという6次産業のところまでですね、取り組まないとなかなか先は見えないのかなというふうに思います。とまともいような方がいろんな形で加工品を出しておりますので、ぜひそういったものを前に進めるような形で取り組んでいただければありがたいなと思っています。

○司会（霜鳥榮之） はい、ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○市内男性B ○○の○○です。ちょっと年取ったから耳がちょっと不自由なので、ちょっとマイクがございまして、皆さんから知っていただきたい。それから。

○司会（霜鳥榮之） すみません。マイクをちょっと。

○市内男性B 6人いらっしゃるんですけども、6人のうち長の付く人が4人です。それから、きょうそのほかに議員さんもお見えになっているということで、私これから話すこと司会者あれですか、ちょっとテーマとちょっとずれてるかもしれませんが、私災害、農業災害の話をそれから、人命ということでちょっと話をさせていただきますが、時間がないようですので、できたら私の話を議員全部で10人でしょうか、この話を知ってるか、いないかというきょう現在、アンケートをしたい。名前と知っている、いないということで返答よろしいですので、司会者あまり時間取りたくないと思いますので。

○司会（霜鳥榮之） できるだけ簡潔にお願いしたいと思います。

○市内男性B 一昨年、10月22日早朝3時、北沢川の氾濫で家の前、それから隣の家の前、大体80センチの水でした。

私はなすこと、旧妙高村出身の宮澤さん、八木さん、何回も話しています。それから、地区協議会長、原通の振興会のみなさんに何回となく現地で話をさせてもらっております。農林課、建設課、何回となく家へ来て、私説明してございます。私の話の中に、当時の話と私きょう話すこと、もし途中でたいしょう、そんときの話と違うじゃねえかと、違うことをしゃべったらその場で山下さんそんなこと聞いてませんよと私の間違いかもしれませんし、舌足らずで説明しなかったかもしれませんが、その辺ひとつお願いします。17年、10月22日朝3時、裏の川がごうごうという音で息子が起きて私へ「父ちゃん大変だ」家の前大体60センチです。10月ですから、家の倉庫に米が、相当に積んであった。リフトで持ち出そうにも雨が降ってて持ち出せないんですね。そういうことで、水の量が家の100メートル上の河川が3メートル40の1メートル80。家の下のゲートが、1メートル50の1メートル20なんです。1メートル50と1メートル20の水の量の上から来たのが、3.6倍です。2.6倍が家の裏から隣の上の家へ溢れたこととなります。すぐ、議員さんも来てもらいましたし、これは大変だ。みんな写真撮っていきました。今現在、対策としてやっていたのは、ゲートが1メータ20を1メートル50に直してもらっただけです。それで、去年の台風24号。瀬戸内海で相当な被害。私、市の農林課へ大きな台風が、家まだ稲刈りがあるんで何とか対策取ってもらえないかということで、農林課長にお願いして責任のある方来てくださいと、二人で来ました。正直言って、らちが明かない。あんた方、24号があればほど暴れてんなに、作物を守る方法を考えてないんかせったら、考えてないって言ったんですね。私、一回帰って検討して明日来てくださいと。場合によっては間に合うかもしれない。そしたら対策はございません。明日は来るか来ないかわかりませんと。私は息子とあんまり、人に頼り過ぎたということで、自己防衛やろうじゃないかと、夜建設業者に頼んでトンバック12個用意して次の朝積みました。市では、来ませんでした。私、トンバック一個いくら知らんけど、うちでも用意すること市で事前に防げないのかと、予算がない。現状はそういうことでございます。皆さんあるかないかわかりませんが、201億の中に繰り越しが何億というその繰り越しだと思えます。そのうちトンバック1個1万としても、12万ですよ。去年高鳥先生が来られました。高鳥先生ナッパ服着てんのに、ネクタイして座りあがっていた。

○司会（霜鳥榮之） ○○さん。出来ましたらもっと要点をまとめて、逐一報告してもらってると時間が過ぎてしまいますので。

○市内男性B わかりました。私もお願いあるんだということでお願いしました。議員さんが来て、農林課長の話とか、これ以上山下さんのとこへ行かんでください。何たる言葉ですか。できたらそのお話を議員さんが知ってるか、いないか、アンケートの下に名前と知ってます、知りません。できたらそれをお願いします。私、市のしょうに公の場でこれを話しますからということで話してありますので、きょうこれで大体わかるはずですが、ちょっと長くて申し訳ないです。

○司会（霜鳥榮之） 今言われましたように、知ってるか、知らないかだけのことで御理解いただいて特別答弁が必要とされていないようでございますので、次に移らせていただきたいと思えます。そのほかにいかがでしょうか。

いかがでしょうか。それでは、私のほうからお願いしたいんですが、上段が農業、下段が地域づくり。地域づくりの活動に関わってる人おられましたら、この原通地域の地域づくりはこんなことやってるよというようなことを御紹介いただけないでしょうか。どなたか、お願いします。

○市内男性C きょうは、ありがとうございます。私は地域づくりということからしますと、今、○○の自治会長を仰せつかっておりますので、その立場で簡単にお話させていただきますが、テーマが農業を中心にしたということで、この○○地域については、集落が17集落あります。ごらんいただくとわかるんですが、点在しております

て各集落単位ではですね、区長さんを中心にいろんな事柄が進められていると。集落の重要な事柄は区長さんのほうを中心に進められています。従って集落の団結力は非常に強いかなというふうに思っております。自治会としましては、その集落の団結力をいかに地域として活力を見出していくかということに主眼を置いておまして、従って地域の人が一堂に会する事業については非常に力をいれてやってるところであります。春、夏、秋、冬とそれぞれ季節に応じて一つずつ大きな事業を入れてるんですけども、この地域については、原通小学校があったときに小学校を中心として、学校と地域が一体となっておりますね、今コミュニティ・スクールが導入されているんですが、その先進的な形でもう30年くらい前からそういう形でやっていたと。非常に学校を核としていた事業をですね、そのまま自治会として継続してやろうということで運動会、秋の文化祭、これは学校と連携した行事でしたので続けております。地域の皆さん、非常に参加して下さいましてですね、延べにしますとこの地域としては非常に多いというふうに思っているんですが、約300人くらい参加して下さいましてということでそこが地域のコミュニティの一つのコミュニティづくりの中心の事業ということで考えています。そんな地域ですが、この農業が、今、後継者がいないということになってきますと、この圃場がどんどんどんどん耕作ができなくなってくることも想定されます。人口減少ということで、今私が申し上げたコミュニティの事業についてもこれは継続してできるかどうかといういつかはできなくなってくる時期がくるというふうに思っています。この地域、やはり一体となっておりますね、農業についても生産組織についても先ほど小嶋委員長さんからお話ありましたように、生産法人をまとめてですね、大きなものにしていかないと、なかなか太刀打ちできていかないんじゃないかなと。地域も成り立っていかないんじゃないかなというふうに思っております。やはり、人口がどんどんどんどん減っている。産業が雇用の場がない。これはやはり一番大きな原因かと思しますので、これらについては、やはり行政のほうの施策、この中山間地にも波及していただけるような施策を議員さんからも政策を提言していただいてですね、根本的な事柄を解決していただく。我々は地域の住民としてそれらについては積極的に協力していくという形でやっていかないと成り立って行かないのかなというふうに思っているところです。以上、簡単ではなかったかもしれませんが、よろしく願いいたします。

○司会（霜鳥榮之） ありがとうございます。議員さんのほう、今の話で何か意見交換でございますのでありましたら、よろしいですか。ほかにはいかがでしょうか。どうぞ。

○市内男性A ○○の○○です。誰も手挙げないみたいなので、この際なんでしゃべらせもらいます。今後地域づくりということなんですけど、私、日本型直接支払制度の中の多面的機能というところを担当させてもらってます。そこで、集落単位ですね、地域活動ということで草刈りとか江浚いとか共同でやってるんです。春はそういうことですね。夏になると一斉に草刈り、農業者は草刈り。あとは、農業関係の施設の補修もやったりということをやっているわけなんですけど、それは、私どもの地域での地域づくりということなんですけど、妙高市、ちょっと外れるかもしれませんが、全国でも住みやすい街の上位クラスだというふうに思っています。新聞発表でもそうなってると思います。私どもとしては、なかなか実感がそこはないところなんですけど、このもらった表の中に妙高市の人口推計ということで2020年は、3万人。2045年には、2万人を切るという予想が出ています。住みやすいまちでありながら、なぜこんなに人口が減っていくのかということについて御意見をお聞かせ願えればというふうに思います。

○司会（霜鳥榮之） どなたがお答えしてくれますか。所管は総文だから、宮澤委員長。

○総文委員長（宮澤一照） 総務文教委員長の宮澤でございます。住みよさランキングというのは統計上のことであって、皆さん住んでみて今言われたように本当に住んで、ここは住みやすいのかということとどうかなというところはあると思います。しかしながら環境とか見たときには素晴らしい所でもあると思うし、ただ、やはりね、今の農業問題にしてもそうですけれども後継者がいないということは、やっぱりこの街なかにおいても生産人口が非常に少な

ということ。これは、観光においても全く同じことになって来ています。後継者が全くいなくなっているのが事実だと思います。やっぱり知名度を上げないとこの地域が良くならないということ。だから市がどこにお金を付けるかこれは非常にこれから大事になってくると思うんですよ。後継者を付けるにしても今「RESAS」というのがあります。これ国の要するに情報をですね、どこに、何が必要なのか。要するにそれを全部データを国が取ることができるRESASというのがあるんだけど、そういうものを使っていかに予算を付けるか。それを市が勉強することが今一番大事だと思うし、当然議員もやらなきゃいけない。そういうことによって、例えば後継者の何が必要なのか。農業問題でどういうふうに税収を上げるか、所得を上げるか。何が必要なのか。そういうことを若者が住めるような体系をまず持つことを市が中心になってやっていかなきゃいけないということと、当然生産人口を上げること。そのためには、人口を上げるための企業誘致もあるけれども、今あるものをしっかり磨くことが私は重要だというふうに認識しております。以上でよろしいでしょうか。

○司会（霜鳥榮之） よろしいでしょうか。

○市内男性A 人口減少についてはどのように考えておられますか。

○総務文教委員長（宮澤一照） これは、私の個人的な意見でございますが、人口減少は本当に今の段階ではやむを得ないような現象になってきている。特にここの地域もそうですけれども、職場がない。雪がすごい。大雪になってくると若い世代と一緒に同居したくないという人もどんどん出てきている。だから魅力をいかにこっこのほうに持ってくるかということが大事なことだと思うんですよ。今、この妙高市全体が本当に魅力があるかどうか。認知度がどうか。その統計を見たとき、決して認知度があるわけではないんです。全部ゴールデンルートのほうに行っちゃってるのが事実だと思うんです。人口減少問題を解決するためには、まずは、認知度を絶対に上げるべきだと思うんです。その政策が今一番私は重要だというふうに、これは私個人的に思います。これ以上私自身が話す私の報告会になっちゃうんで止めますけど、よろしくお願いします。

この生産人口にしてもそうですけど、そういうことについては非常に隣の副委員長よく知っておりますので、よく質問しておりますので、南部ですのでよろしくお願いします。

○総務文教委員（阿部幸夫） 私のほうにまわってきましたので、私が少しこれまで人口減少について自分の思いも含めてですね、質問してきましたけれど、皆さんもよく考えてもらいたいんですが、それじゃあ働く場所があれば、そこに若者が残るのかとか、逆に言えばですね。今時代の変化はどうなっているのかとかですね。いろんな切り口がありまして、私自身は最近非常に思うのは、今交通の便が良くなりました。高速道路ができ。新幹線も走ります。そして、社会全体がですね、若い人たちが高学歴になってるんですね。ほとんどが大学、専門学校。ましてや大学から大学院へ行って研究生が多くなっている。こういう現象なわけなんですよ。地域のまわりを見ていただいたら、若い人がどうしてるかという、大体学校卒業したら、昔は高校で工業に行ったり、商業に行ったり、普通科に行って、自分の将来を決めてきましたよね。でも最近はそのじゃないんですよ。ほとんどが大学を目指す。その前に専門学校目指す。そうしますとこの地域に専門学校がどれだけあるんでしょうか。ほとんど都会ですよ。都会行って、専門学校行って、そして専門分野をやりますとこの地域にそういう分野が少ない。すなわち製造業よりも背広組み、ネクタイ組みが大変多くなってるんですよ。それが東京とか東京周辺のところに働く場所がいっぱいある。そして皆さん知っているとおり、「3K」ということがありまして、汚いとか、言葉が悪くてすみません。どちらかという背広組みを目指してしまっ、最近海外から外国の皆さんが働く場所がどんな場所でしょうか。そこが非常に今大切なところになってるんじゃないかというふうに思います。私は、ただ働く場所があれば、だけではなかなか解決しない人口問題になってるんじゃないかというふうに思いますのでお互いですね、一言だけ言い切るのではなくて、多面的にいろんな角度から見てこの妙高市をどのような特徴を生かすかということに今重



点を置いて考え考えて行ったらいかがかなというふうに思ってるところです。長くなりました。

○司会（霜鳥榮之） ありがとうございます。よろしいですか。

○市内男性A まだあるんですけど、ほかの人に聞いて下さい。

○司会（霜鳥榮之） ほかの方いかがですか。どうぞ。

○市内男性D ○○の○○ですけど、二点ほどちょっとお尋ねせうか、お願いせうか、話なんですけども、まず第一点は冬の除雪の関係なんですけども、除雪は相当頑張ってやってもらってるんですけども、なかなか雪国の宿命ということでいつ降るかわかりませんが、市の協力を得まして今年からは10センチという形で出動してますけども、私聞きますと朝5時から6時までの降雪が10センチなら出動しますと。それ以降につきましては、建設課のほうの支持がなければ出動しないという形で話を聞いてますので、その後結構ありまして、今年の冬も3、4回除雪支部長という制度もありまして、その方からお願いしてやってるんですけども、なかなか実現されてないのが現状です。本当に朝、雪が降って困ってるのが通勤通学だと思いますけど、中には夜に交代で勤めてる方もいますので、新井に勤めてる方で、除雪しないで帰ってこれないから新井で泊まって朝帰ってくるという人もいますようです。そういう話も聞いてますので出来ましたら、夜間の除雪ですね。真夜中とは言いませんけども、9時とか10時ころ1回出てもらうとか。除雪の関係については、業者をお願いして、判断で、一番地元ですので、わかりますのでそういうシステムをつくっていただければありがたいんじゃないかなと思います。その辺をどう考えてるか。二点目なんですけども、直接妙高地域に関係ないんですけども…。

○司会（霜鳥榮之） すみません。一点ずつお願いします。雪の問題じゃないですね。じゃあ、雪の問題先をお願いします。これは建設厚生委員会の所管になりますので、地元で八木さんがお答えしてくれます。

○建設厚生委員（八木清美） いつもお世話になっております。除雪についてですけれども、毎年ですが、昨年も11月に業者と除雪支部長、そして行政ということで三者で説明会がございました。毎年のことですけれども、それによって今年から除雪の基準がですね、15センチから10センチに変更になったということで、説明会も詳しくあったかと思えます。当初ですね、妙高地域については、新井地域とは違ってですね、雪の降り方も激しい日もありまして、苦情もございました。なかなかうまくいかなかったんですが、その後の委員会で今冬はどうだったかということで質問したところは、全体には当初は苦情もあったけれども、全体的には小雪だったのであまり苦情はなかったと聞いております。妙高地区は雪下ろしも3、4回。それから妙高高原地域は7回から8回の雪下ろしもあったと聞いてますので、決して少ない状況ではなかったんですが、一方では、関山地域で10センチになったおかげで非常に前とは違って楽になったということも聞いております。また、新井地域では、車いすをお使いのお宅では、10センチになったおかげで非常に自宅から出やすくなったと聞いております。まだまだ課題がありますので、今後も引き続き注視していきたいと思っておりますが、夜間除雪についてもですね、近年働き方の多様化がありまして、多様化されておりますので看護師、介護士、またサービス業等の方々もおられますので非常に条件も変わって来てますので、夜間にお帰りになるという方も多いと聞いております。3月の委員会では、夜間除雪についてはどのようなことでお聞きしましたところ、費用対効果、それからオペレーターの確保等に課題が残るので今のところはまだ考えていないというお答えでした。今後も皆様の御要望にお応えすべく質問をしていきたいと思っております。昨年の市民のアンケートによりますと、冬の除雪ですと、一番困るということでアンケート調査の結果が出ておりますので、皆さんもやはり冬が一番つらいし、高齢者にとってもつらいことだということは、十分承知しておりますので、今後もアンケート調査等の御要望にもお応えすべく提案していきたいと思っております。

○司会（霜鳥榮之） 雪の問題はこれでよろしいですか。二点目お願いします。

○市内男性D ありがとうございます。それでは、二点目なんですけども、今新井の道の駅ありますよね。あそのの

関係で、今既存の下にトラックステーションというの空いてると思うんですね。あのステーションがどうして広い土地を空かしておくのか。疑問に思ってるんですけども、その点の関係と今反対側に新しい道の駅つくりますよね。もう議会の皆さんの承認ももらったということで約11億の金をあそこへ投資すると聞いております。聞いてるんですけども、あの道の駅がどういう形で何が出来てどうなっていくのか。先が全然見えないんです。それとそれだけのお金を投資するんですから、投資効果と経済効果ですね。その辺どんなふうになってるのか、もしあんでしたらお聞きしたいんですけど。お願いします。

○司会（霜鳥榮之） これは産経ですかね。小嶋委員長お願いします。

○産業経済委員（小嶋正彰） 道の駅ですけれども、あの拡張道の駅については重点道の駅というようなことですね、国の認可もいただいているようなことです。そもそもの出発点が防災拠点ですね。大規模災害があったときにいろんな物資の搬入、仕分けそういったものを中心的に担えるというようなところから出発して、それに併設して農業振興施設というような計画で流れがあったかと思います。今現在のところは、先日の全員協議会の中で説明があったのは、農業振興施設ですね。農家レストラン、それから加工所、雪室、こういったものを組み合わせた中で農業振興の対応をできる施設にしていこうというような形で拡張道の駅が進んでいるところでございます。国の補助金等を入れながら整備をしていくということでございますので、今年度設計、それから建設費用が付いておりますので、これから中身がですね、色々、指定管理者だとかいろんな形で出て来るんだろうと思っております。その辺についてはこれからも議会の中でよりいいものにするように議論を重ねていく必要があるんじゃないかなというふうに思っております。トラックステーションについては、当初一番最初のところから運転手さんの休息所みたいな形で、大型車が止められる。それから、宿泊の施設があるというようなことで出発したかと思えます。もうすでに閉鎖してからかなりの年月が経っております。その間には色々譲渡先を探したり、いろんなことをやっていると聞いていますが、何分にも民間の施設というようなことでございますので、なかなかその辺は難しいのかなというふうに思っております。そういったことで、今のところあそこがどういうふうにとというのは、なかなか聞こえてこないんですから、答えとしてはこんなようなことでは、ちょっと満足いかないかと思えますけども、今の状況はそんなようなことでございます。

○司会（霜鳥榮之） よろしいでしょうか。意見交換ですんで提案等もありましたらそのほうがいいんですけども。よろしいですか。

○市内男性D トラックステーションにつきましては、あれだけ土地が空いてますので、駐車場の拡張に利用したらどうですかね。それでなくても駐車場少なくて結構混んでますのでそういう形で有効利用を考えたほうがいいんじゃないかというふうに思います。

○司会（霜鳥榮之） ありがとうございます。ほかに、それでは御意見、そちらの方。

○市内男性E ○○の○○という者です。雪のことで先ほど、○○さんからも色々質問していただきました。議員の皆様から全会一致で新潟県妙高市は絶対な除雪が大丈夫だと、そういうことでないと人口なんかふえないと思えます。この間も私の知ってる人でやっぱり世帯、千葉のほうへ雪降る前に行きました。この間3月入ってから、千葉のほうへ家中で移住しました。私も40くらいだからあと40年もあると雪の降るとこやだというんだね。ざっかり話。だから、賢い人はみんなそうやってあっち行っちゃうんか、日本一住みよい街、妙高市なんて言ってもやっぱりそこから辺議員の皆さん全員で頑張っていただきたいと思えます。以上です。

○司会（霜鳥榮之） 雪問題で頑張れっていう声ですけど、どなたか御答弁できますか。

○建設厚生委員（渡辺幹衛） 渡辺です。意見交換だから、私、質問に私の私見を考えを言うの控えようと思ってたんですけど、振られましたんで一言だけ。住みよさランキング1位。県内20市あるんですから1位から20位まである

んですよね。20番目まで。皆さんも実感としてなかなかないと先ほど出ましたけど、じゃあ20番目のところはどのくらいの暮らししてるんだらうかって私常に疑問に思ってます。だけど色々統計上の取り方でやっていますけど、例えば病院があるとかなんか言って、そこの中に診療科目が充実してるかどうかの問題も果たしてカウントされてるのかどうかと色々問題はあります。それはそれとしまして、雪の問題につきましては、除雪の基準も変わりました。変わりましたが、それは3、4年前から何で合併したら厳しくなったんだ。出なくなったんだ。隣の上越市は、県は10センチじゃないかって話出て、散々論議しました。そして、数字ですからなかなか実態反映できるかどうかわからないんですけど、建設課長の答弁では、渋々ですけど数字は変えないけど市民生活に支障が出ないような対応をする努力はしますというところまで来たんです。だけど去年たまたま市長選挙ありましたから、目玉として15センチを10センチにするという話題が上がりました。評価もあるんですけど、実態の生活では本当にどうなんかどうかというのは、なかなかまだ結論はでてないような気も私個人的にはするんです。むしろ、基準が先ほど5時、6時に10センチだとかその話はありましたけど、そこは非常に曖昧なんですよね。私斐太地区なんですけど、その業者、非常に広い範囲を持っています。そして機械も古くなって業者もいます。そうしますとね、1時頃に出るんですよ。そうするとさっきまで星が見えてたんですけど、少し曇ってきた。天気予報も入りますからあれですけど。出てぐるぐるっと回ってきて、自分の集落来ると2回目回ると。1時ころ出られた集落は、もう50センチも60センチも通勤時間にあっても通れるもんじゃないという苦情もあるんです。それで、少し割ってもらわないかっていって新規の業者が参入したところもあります。そういう点では、議員の建設厚生の中では話してるんですけど、やはり日中除雪の問題、朝通勤は何とか間に合ったとしても、日中の問題については支所とかそこで判断できるように権限を移したほうがいいんじゃないかというのを常に強調してるんですけど、そうでないと今年なんか特にそうですよね。私らのところは平年以下で少なかったです。今年は過ごしやすい冬だったねと、この間そう言ってたんです。だけど資料を見ると、妙高高原や妙高では特に妙高高原の頸南消防署のを見ましたら4月になってから続けて20センチ、30センチと降ってるんですよ。うちのほうは、2センチ、3センチです。そういう点で見ると、地域差が大きくなってきて雨でもそうですけど、そういう対応を工夫してもらいたいというのは、今後強調していきたいと思います。すみません、私見も述べて。

もう一つ私見ついでに。道の駅の問題です。先ほどトラックステーションの問題。あれは市が持ってないで買ってもらった土地ですから、市がすぐ返すってわけにはいかないんです。また向こうの金の都合もありますから。ただ、スペース的に見るとあのスペース、8000平米くらいあります。今の第2道の駅というか国道の東につくってまますけど、あそこで予定されている駐車場も災害対応だとかいろいろ理由付いてますけど、約8000平方メートルくらいです。同じくらいです。そういう点では、29年の3月にもう向こうで辞めたといったわけですから、何とかならなかのとかとってこの間資料も取り寄せたんですけど、そういう点で私個人的にこれこそ個人的ですから、東側の道の駅、非常に不安です。私の住む地域、すぐ裏ですから。そう思うんです。非常に不安です。交通のアクセスもそうだし、農家の皆さん、出店者。今確かに道の駅出店するに狭いです。だけど、狭いから広くしてもらいたいって陳情があったの5年も7年も前です。今あそこ広げて農家の後継者の皆さんやその人たちが対応できるかどうか。それも不安です。これも事実確認したわけではないんですけど、先ほど雪室レストランと色々新しいもの、目新しいものはできそうです。だけど、JAも参入を渋っているというような話も聞こえてきます。そういう点では大いに不安を抱えたままスタートしたなと思っています。これは全くの私見です。すみません。

○司会（霜鳥榮之） ほかに御意見いかがですか。

○市内男性E ○○の○○と申します。2点ほどお質問したいんですけどね、1件、1件とりあえずですね、第1点目として平成31年度予算・主要事業の概要と其中的のナンバー4ですね。2800万円ほど付いておりますけども、これ

についてもうちちょっと色を付けて説明していただきたいなというふうに思います。私らね、小原新田ですけど県が旗振る、市が旗振る。県については、非常に突っ込んで交付金をもらって集落も活性化しております。この地域づくりのあれがありますのでもう少し具体的にこれを活用していきたいなという頭の中にありますので御説明お願いいたします。以上です。

○司会（霜鳥榮之） これは総文の所管になります。

○総務文教委員長（宮澤一照） 私のほうでですね、もっと濃くと言われてもですね、ちょっと物足りないんじゃないかなと思いますんで、これは皆さんと同じ地域から選出してる議員がおりますので、彼はずごくそれに対して一生懸命やっております。私も当然認識してますけれども、濃くということになれば当然それなりの勉強をしてちゃんと答弁してくれると思いますので、よろしくをお願いします。

○総務文教委員（阿部幸夫） また副委員長のほうに、阿部ですが振っていただきました。今ほどありましたが、なかなか見た目ですね、地域づくりのほうがそれぞれ投入してきたんですが、うまく回ってないということは皆さんも感じているところだと思います。一番の問題はですね、やはり導入過程においてですね、少し来られる方、そして受け入れる側、ここに非常に差が生じているのではないかというふうに思ってます。そのことについては総文の中でも色々見学をしたり、意見交換をしてまいりました。そこで一番の大きな問題は、3年間居てですね、その後どのように自立をしていくのかということがなかなかその地域では見いだせない。本人もなかなか将来の展望が開けないというのが一番の課題であります。従いまして…。

〔「協力隊じゃないよ。地域づくり。」と呼ぶ者あり〕

○総務文教委員（阿部幸夫） すみません。早合点してすみません。申し訳ございませんです。定住支援と誤解してまして申し訳ございませんでした。先ほど言われた点につきましては、本当にまじめに取り組まなくちゃいけないと思いますし、予算についてもですね、少し評価をしていかななくちゃいけないと考えておりますし、私のほうからは今ちょっと違う形になって申し訳ありませんでしたが、非常にすみませんと謝るしかありません。まだまだ足りないところがいっぱいありまして、もし宮澤委員長のほうからありましたらお願いします。

○総務文教委員長（宮澤一照） すみません。今ですね、予算というのは地域づくり応援事業ということでございますが、今この地域支援員というのが2人ということで出ております。私自身のこれに対する問題点の意識として、考え、予算は予算で付いてるんですけども、地元の方といかにコミュニティーを取れるか。要するにこの地域支援員の理想と地元の方がいかにコミュニティーがしっかりとれるか、マッチングできるかどうかということが一番これの事業の中ですね、応援事業に対しての結び付きに私はなってくるというふうに感じております。ですから、今この前ですね、地域支援員ともどもですね、南部の克雪センターで我々は総務文教委員会と一緒に懇談会と意見交換会をさせていただきました。その時からですね、含めて一番思うことはいかにその方々がその地域に入って一緒に協働で作業できるかということ。そしてそこから生まれてくる地域の活力というものを見出すというそもその市のまた国の政策に合っていくかということはどうやってもとめていくかということが、この方々には非常に求められていると思われます。今の南部ですね、克雪センターも非常に老朽化してる部分がございます。その辺も含めてですね、主張していかなきゃいけないというふうに考えているのが今の市役所の現状だと思います。私は市役所の予算に対しては、非常に前向きな部分だというふうに考えておりますのでこの地域づくり協働センターの設置。これは非常に重要だと考えております。これは今勤労者研修センターにあるんですよ。文化ホールの所にあるでしょ。あそこの所にこれが今あります。この支援ということで色々ですね、出てるのがこの事業ということであります。もっと詳しく非常に質問ということであるんでしたら、このことの件について総務文教委員会で質問されたのは、私は委員長なんで質問してないんですけども、霜鳥委員が全てこれに対して長く質問されてお

りました。今の言った件以上にですね、非常に総文の中でですね一番重要なのは、やはり地域づくりだと思うんですよ。地域づくりの一つは国の政策として地域のこし協力隊活動支援事業というのがあります。これは国からのやつは、「地域おこし協力隊」と言ったんです。妙高市は名前を変えるのが好きなので、地域のこし協力隊という形で長年やっております。それともう一つ地域づくり応援事業というのがあります。この件については、後ろに居る村越さんもそうですし、南部の皆さん方、霜鳥委員から非常に長く、詳しく質問が出されています。もしそれを話すということ大変なことになりますので、もしあれでしたら事務局のほうから議事録をその辺についてお渡しいただきたいと思います。よろしいでございますか。

○司会（霜鳥榮之） 簡潔に申し上げます。今ここに掲げてあります2800万、予算なんですけど、この中の事業として地域づくり協働センターの設置が一つ、それから地域づくり活動の総合交付金。みなさん地域づくりやっていますとここに交付金が入っています。この交付金もここに入ってます。それから、地域の元気づくり活動。この元気づくり活動というのは、小さいのと大きいのとありましてね、簡単なやつは年間でもって3万ですか、5万ですか。3年継続でもって100万クラス、こういうのもここに入っているということなんです。従ってここでの事業があるとなってもってこの差が出てきますけども、一応それだけのものを盛っているというものでございます。この事業の中に、ほとんどの皆さんでは使っていないような事業なんですけども、この中に入ってるのとはちょっとちがうんですけども、地域の皆さんが協働作業をやったりしたときに、高齢化が進んでいって人手不足だよっていうのがありますよね。ちょっと手が足りないけども、誰か応援してくれないかなと言った時に、総務課のほうでサトヤマンという制度を設けて、応援団を派遣するっていう事業があるんです。これは、メンバーを集める関係で、1カ月前までに申請、要請しなきゃいけないんですね。これをやることによって必要人数、例えば5人とか10人とかこういうものも派遣しますよっていう、これボランティア活動です。業者の方々、それぞれの方々。役所の職員の方々このボランティア活動に入っています。そういう派遣事業もありますよということ、参考までに。以上でございます。

2点目お願いします。

○市内男性E きょうのテーマとしましてね、農業を中心にした今後の地域づくりということで、私はとまとの件で、直売所ととまとね。これを核にしてね、農業中心にした地域づくりということで、その核となるのがとまとだと思うんですよね。今のところ2億を超えました。売上がね。会員は380名くらいいます。そういうような格好でね、会員の方は上越にもいます。そういうことで、非常に会員の方が増えてきておりますが、そこで産業経済委員長にお願いですが、もう少しね、先ほど出ておりましたけども新井の道の駅に11億という数字出ておりましたから11億と言いましょう。それに対して、とまとにもうちょっとね、農業を中心にした今後の地域づくりにとまとを核にしたような補助金等を付けるなり、調査をして応援をお願いしたいと思うんですがいかがでしょうか。

○司会（霜鳥榮之） お願いします。

○産業経済委員（小嶋正彰） とまとはですね、成功事例としてですね、素晴らしいというふうに思います。私も農林課長のときに、農林水産省に色々お願いに行くときにあそこのタラの芽でしたかね。やりましたよね。それをお土産に持って行ったり、あのときは1億超えたと担当の方に報告しました。非常に喜んでおりましたね。そういう今核の施設とおっしゃいましたけど、そういうものが地域にはあるということは大きな強みだろうというふうに思います。その強みの部分をいかに伸ばしていくか、そしてそれをより多くの方を巻き込んでいくか。これは次の課題だろうというふうに思います。確かに高齢化というのは止めようがありません。しかし、高齢者の方々にできることっていっぱいごあるんですよね。知恵もあります。時間もあります。土地もあります。そういったものを地域の力にする。これがやっぱりこれから農業を中心にした地域を活性化していく鍵ではないかなと私は思っております。そういう意味でこのとまとを今もっとさらに盛り上げていくことでございますが、ぜひここをこういうふうに

してほしいとか、こうあるべきだとか、我々もやるし、だから行政応援して下さいというような形になるとですね。やっぱり議会もそれに後押しをするという形になるというふうに思います。地域づくりの主役は地域の皆さんなんですよね。地域の皆さんがこういうことやりたい。それを応援する。後押しをする。予算を付ける。これが私どもの仕事ではないかなというふうに思っております。ぜひ、いろんなお話を聞かせていただきたいと思います。

○司会（霜鳥榮之） よろしいでしょうか。それでは、ほかにいかがでしょうか。こちらの方をお願いします。

○市内男性F ○○の○○と申します。ちょっとテーマから逸れるようですが、防衛省予算の使い方について説明を願いたいんですが。地元関山では昔から防衛省施設の予算が下りてきたはずなんです、最近市になりましてから、地元を使う額が全くないような感じられるんですが。実は新井の吉木の小学校全部潰しまして、コミュニティセンターつくりましたね。あれは、防衛省予算ですよ。それに対して関山のコミュニティセンターについては、耐震構造をちょっとやりまして、1カ月くらいできあがったという形で、全く使われ方が地元の御迷惑被ってる地元に使ってる予算が全くないんじゃないかと思いますが。その辺を御説明願いたい。どのように使ってるのか。できれば全く関山地区については、恩恵がない状態ですが。

○司会（霜鳥榮之） 宮澤委員長。

○総務文教委員長（宮澤一照） やはり、地元のあの地域は、関山地域が演習もそうですし、例えば皆さん方一番招致されてると思うんだけど、演習やってどーん、どーんと音するたびに額が落ちて、ペースメーカーの方も非常に辛い思いをされているということを知っておりますし、やはりあの地域が迷惑してるんですから民生安定事業においてもそうですし、その辺含めたですね補助金というのはあそこが優先になるべきだと私も考えておりますし、大久保さんのおっしゃるとおりだと思います。当然私もそれに対しては主張しております。八木さんも主張しております。それは当然のことだというふうに思っておりますし、それは旧妙高村のときから、山下さんもそうですけれど議員の防衛施設の特別委員会というのがちゃんとあって、それが今はありません、ですけれどもこれに対して合併するとういう形になるんですね。だから、我々が一所懸命になってしっかりと要するに地域のための安心できるための防衛予算だということに今一度見直して予算を付けてもらうようにこれからもやはり私たちが提言していかなければいけないと思うし、今ここにいる議員の皆さん、ほかの議員の方々もやはりこの地域の関山地域、それから旧妙高村の地域の皆さん方がこういうことで迷惑を被っていることを皆さん方にも認識していただいて、この市政に対する提言をしていただきたいというふうに私は個人的なこともありますけれども、これがあるべき姿だと感じております。

○市内男性F お願いいたします。もう一つよろしいですか。

○司会（霜鳥榮之） はい。

○市内男性F こちらのガス、水道、公共下水道、簡易水道事業費とこう出てますけど、今後のガス上下水道事業のあり方検討と民間連携とありますけど、今妙高市で都市ガスが入ってないのは妙高地区だけなんですよ。赤倉、高原町についてもそうですし、新井地区についても市ガスが入ってるわけです。合併前から色々ガスについては、話しあったんですけど実際にガス引っ張るきになりゃ、引っ張れるわけですよ。高速の横走ってますから。その辺、方針5のあたりでガスについて入ってない地区にガスを導入するような検討はないんでしょうか。その辺ちょっとお聞きしたいんですが。

○司会（霜鳥榮之） 小嶋委員長。

○産業経済委員（小嶋正彰） ガス事業、この資料には民間譲渡といいますかね、行政改革の中でそういう行政コストを削減するという意味から民間に譲渡してはどうかとういうような、前から提案がございます。それを検討している段階でこういう話がここに資料に出て来るようなですね、官民連携の推進について課題と検討内容はと

こういう形になっております。コンサルタントを含めてですね、どういうふうに進めたらいいのかというのを今検討しているというような回答でございました。今、テレビやなんかではですね、水道事業を民間のほうに委託するとかそういうような話も出ております。ただ、大事なインフラである水を民間に任せていいのか。或いは料金設定がいつの間にか高くなってくんじゃないか。こういうような大きな心配がございまして、なかなか進まないという部分もあります。一方ガスはですね、ほとんどが民間なんですよね。公営でやってるのは全国でもごく少ないほうです。柏崎やなんかでも民間に移行しているというような状況でございます。やはり採算性の問題、それから設備の老朽化と言いますかね、妙高市におきましては妙高高原もそうですし、新井地域もそうです。そういったものをどう更新していくか、そういったものに非常に大きな課題がある。なかなか民営化という部分には、検討が進まないという状況があります。そういった中で、新たな区域の拡大というのはですね、今のところそういう状況についてはですね、なかなか難しいというのが結論のように聞いております。確かに入っていれば良くなるわけですけどもなかなか条件の部分。産業経済委員会の中で話がでたのは、新井の五日市とかあっちのほうへの拡大はありました。それも、供給区域が隣接してるとか、やりやすいとかあるんですが、ただ負担が大きい。もちろん受益者の負担もしていただかなきゃいけない部分もある。こういうようなことからなかなか進まない。拡大についてもなかなか進まないというのが、議論がございました。そういったことでですね、すぐには進まないかもしれませんが、きょうそういった御意見があったということについては伝えていきたいというふうに思っています。

○市内男性G 妙高地区に対しては、下水道工事は隣の旧高原町、新井市あたりより早く入れましてほとんど100%くらい妙高地域は下水道通ってるんですけど、ガスだけはまだならないと。人口が少なくなっていくんですけどもこのテーマにある住みよい地域づくりになればそういうとこ入ってないと困りますので、その辺の具合はどんなものかと私思ってるんですが、また御検討お願いしたいと思います。

○産業経済委員（小嶋正彰） そのような形で伝えたいと思います。

○司会（霜鳥榮之） ほかにいかがでしょうか。

時間のほうもですね、一応の予定としては8時半くらいという目途でいるんですけども、もしあればということでもってお受けしたいと思うんですけども、なければこれで閉めてしまうということになるんですが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

---

○司会（霜鳥榮之） ありがとうございます。それでは、以上をもちまして、議会報告会、それから意見交換会を閉会とさせていただきます。本日は大勢の方に御参加いただきまして本当にありがとうございました。皆さんの貴重な御意見、今後の議会活動に大いに生かしていきたいというふうに思っております。最後にですね、皆さんのお手数ですが、ぜひアンケートにお答えをいただきまして、その場で結構です。机の上に置いて行っていただければ結構ですのでよろしく願いいたします。お帰りの際は交通事故等十分お気をつけてお帰り下さい。本日は大変ありがとうございました。

（拍手）

閉会 午後8時32分